

君のために

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校 2年 升谷 文音

「ピーポー、ピーポー。」

「コロナの患者さんかな。」

病院の近くにある私の家ではよく救急車の音が聞こえてくる。その音を聞くと、私が救急車で運ばれたことを思い出し、感謝の気持ちがわいてくる。小学校四年生の時、不注意で大怪我をし、救急車で運ばれたのだ。救急車の音を聞きながら、今、乗っている人も私と同じ気持ちなのかなと思った。

あの時、こうも思った。周りの人が救急車を呼び、運ばれていく流れの中で私は何か足りないものを感じていた。バスやタクシーは料金を払う。ジェットコースターも料金を払う。でもこの救急車に私は料金を払っていない。「誰が払うんだろう…。」

調べてみると、救急車は税金で動いているということだった。そればかりではない。例えば、新型コロナウイルスの感染者が増える中、必要な医療機材、医療体制の整備、隔離するために必要な費用など、多くのものも税金で賄われているということだった。

さらに調べてみると、他にも様々な用途で使われていた。道路や橋、水道や電気などの日常生活にかかせないもの、災害や事故に遭った人達への生活保障、そして世界の人々を助けるためのODAなどである。

このように、税金は国民の命や健康と豊かな生活を守り、世界の人々を助けるために使われていることが分かった。つまり、税金は現代に生きている人々を支えているのだ。

調べていく中で、もう一つ気が付いた。学校や研究所である。

教科書の裏表紙には『これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。』と書かれている。私達が将来大人になった時に、たくさんの人の役に立てるよう、素晴らしい社会を築ける人になれるよう、願いが込められている。

また、南極でのオゾン層の観測、介護に役立つ福祉ロボットの開発、自動・安全運転を可能にするAIなど、税金は未来の環境や技術を支えている。

よく考えてみると、今の私達の生活や技術が前より発展しているということにも過去に納めた税金が役立っていると分かる。とすると、今私達が納めている税金が将来の新たな日本につながっているということである。つまり、税金は未来に生きる人々を応援しているのだ。そう思うと、なんだか少しうれしくなった。

今夜も救急車の音を聞きながら、私は思う。今の私達が幸せにいるのは、過去に税金を納めてくれた人と現在税金を納めてくれている人のおかげであるということ。そして、これから私は、現代の私達と未来の人々のために税で支えていきたいと。